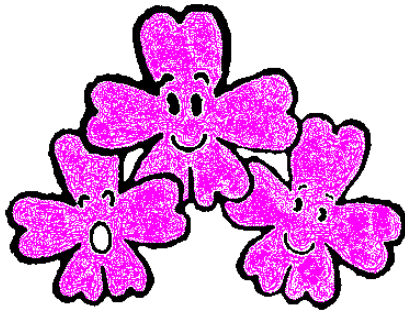


NO. 41

令和2年 1月 18日発行



こころ

特定非営利活動法人

指定就労継続支援B型事業所

阿波就労支援センターアスカ

〒771-1702 徳島県阿波市阿波町久原36番地2

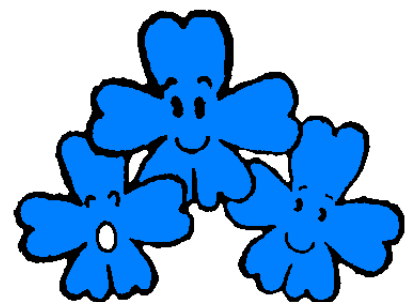
電話・0883(35)6020

FAX・0883(26)5560

メールアドレス asuka@npo-asuka.jp

アスカホームページアドレス

<http://npo-asuka.jp>



令和の時代を迎えて

理事長 笠井光顕

新年おめでとうございます

アスカ作業所は平成にスタートして、令和となった節目に 20 周年を迎えることが出来ました。

これも一重に地域の皆様方、並びに関係各位のご支援ご協力の賜物と衷心よりお礼申し上げます。

20 周年を振り返ってみますと

平成 12 年 4 月 1 日に阿波町小規模通所作業所アスカからスタートしました。

当初は先ず社会参加と自立を中心に運営してきました。

平成 17 年 4 月 1 日に町村合併により阿波障害者地域共同作業所アスカに名称が変わりました。

平成 20 年 1 月から特定非営利活動法人アスカとして活動を始めました。

平成 24 年 12 月から阿波就労支援センターアスカ（NPO 法人アスカが運営する指定就労継続支援 B 型事業所）へ移行しました。

現在取り組んでいる主な作業

〔施設内作業〕

アエルワ食堂内 C o f f e e H o u s e ・ 各種造花 ・ 鍵部品の組立袋詰め ・ 自動車部品ハーネスの組立 ・ e t c

〔施設外作業〕

自動販売機の清掃 ・ トイレ清掃 ・ エコの回収作業 ・ ネギの仕分け e t c

作業は明るく、楽しく、安全が基本です。

先ず職員が楽しく喜んで働かないと利用者も楽しくありません。

より一層安全で楽しい作業所を目指して頑張っていきます。

これから 30 周年に向かって再スタートです。

利用者の工賃UPに職員一同全力投球で立ち向かって参りますので皆様方の尚一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが皆様方の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



活動報告

2019年	7月13日	水中ウォーキング
	7月24日	ゴール品質会議
	7月30日～	5日間夏期社会適応訓練事業
	8月10日	中ウォーキング
	8月20日	サービス調整会議
	8月21日	ゴール品質会議
	8月27日	アエルワ防災訓練
	9月7日	調理実習
	9月10日	サービス調整会議
	9月14日	水中ウォーキング
	9月15日	施設内研修（夏期社会適応訓練事業振り返り）
	9月18日	ゴール品質会議
	9月24日	給食会議
	9月28日	体操教室
	10月5日	体操教室
	10月12日	水中ウォーキング
	10月19日～	育成会 中・四国大会（岡山）
	11月9日	水中ウォーキング
	11月12日	サービス調整会議
	11月13日～	中堅社員研修
	11月16日	4事業所合同研修（コミュニケーションスキル）
	11月23日～	育成会 全国大会（熊本）
	11月25日	民生委員さんともちつき大会
	11月26日～	実習生受け入れ 国府支援学校 1名、美馬分校 2名
	11月30日	体操教室、忘年会
	12月7日	ふれあいフェスティバル
	12月14日	水中ウォーキング
	12月8日	障がい者交流プラザ総会出席
	12月9日	ハピエコ会議
	12月10日	サービス調整会議
	12月18日	ゴール品質会議
	12月21日	体操教室
	12月23日	精神障害地域移行支援関係職員研修
	12月28日	施設内研修（緊急時対応処理）
2020年	1月6日	仕事始め 初詣
	1月11日	水中ウォーキング
	1月18日	防災訓練
	1月25日	スポーツ教室

第6回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会熊本大会に参加

生活支援員 梶原穂並

基調講演

私は、第4分科会「検証！本人の尊厳」（・命をはぐくむ・検証、やまゆり園）に参加しました。相模原障害者施設殺傷事件は、2016年(平成28年)7月26日未明、神奈川県相模原市にある神奈川県立の知的障害者施設「津久井やまゆり園」に元施設職員が侵入し、所持していた刃物で入所者19人を刺殺し、入所者・職員計26人に重軽傷を負わせた事件のことです。基調講演では、この事件を様々な角度から検証しました。

①施設の防犯対策

施設の状態や監視カメラなどのハード面、逮捕された元職員の採用、労務管理状況、研修など法人としてのガバナンス状況についてどうだったかという角度から検証を行いました。

②精神科医療

このテーマでは医療にどこまで委ねるか、委ねるとすれば何が必要か、危険のレッテル、通院歴報道の批判について話されていました。特にこのテーマの話では、附属池田小事件(2001年6月8日に大阪府池田市の大阪教育大学附属池田小学校で発生した小学生無差別殺傷事件、この時に児童8名が死亡、15名が負傷した)の犯人について話されています。犯行はでの10年間、宅間元死刑囚はおびただしいトラブルを起こし、精神病院と警察を行き来するような状況でした。しかし、その中で3年間だけ警察や病院のお世話になっていない時期がありました。奇行はあったものの、一緒に暮らしていた女性がいたことで警察や病院のお世話になることなく、地域の中で生活できた3年間があったのではないかと分析されていました。このような女性の存在が、1人でも味方が近くにいたことが、3年間のあいだ地域の中で暮らすことを可能にした要因ではと話されていました。しかし、この女性のような存在は制度があるからと言って作り出すことはできません。しかし、制度によってこの女性のような存在を支えることはできるのではないかと話されていました。

③匿名とメディア

当初、神奈川県警は施設にさまざまな障害を持った人が入所していること、家族が公表を望んでいないことを理由に被害者の氏名など公表しない方針を示していました。この対応について「すべての命がその存在だけで価値があるという考え方が一般でなく、優生思想が根強い」と考える被害者家族、本人が生きた証として名前を公表する遺族、根底には障害者差別があるという意見が出るなど世論も様々でした。公表を控えた間、容疑者の理不尽な言い分が一方向的に発信され、容易に精神疾患が原因とされていたことに異を唱える人もいました。

④施設は被害者なのか？

では、施設は被害者なのかとなれば、そうとは言い切れないと話されていました。彼は「未知の異常者」ではなく、元職員として施設で働いていた以上、施設の勤務中に起きた出来事や人間関係の中に動機につながる何かがあった、サインがあった可能性がある

ことを話していました。

⑤本人中心の福祉 “意思決定支援”

やまゆり園に入所している本人の意思は、どうだったのかという角度から考えていました。基調講演を行った野澤氏は独断的な価値判断の押し付けを避け、自らの行為を慎重の見直すことを求める法原理、また本人自身による意思決定を最大限に支援し、本人の主観的要素に十分配慮しながら「ベストインタレスト」に適した決定を行う。単なる代行決定でなく「本人と意思決定権限者が共同して決定を挑む支援された意思決定」「シェアされた意思決定」について話されていて、意思の尊重の難しさや慎重な対応が求められていることが伝わりました。

⑥情報保障と合理的配慮

具体的な合理的配慮とは、点字や音声ガイドであったり、新聞記事や運転免許などの試験、取扱書など多岐にわたり必要であると話されていました。普段の生活の中で当たり前に使われている文言や表現に対して配慮が必要な事を今までそれほど気にも留めていませんでした。しかし、言われてみれば世にあふれる難しい文章や二重否定、比喩などの表現がいかにも配慮に欠けている表現なのかについて説明が分かりやすかったです。

⑦優生思想

事件発生後の匿名報道の根源として、障害者を無価値、恥ずかしい、隠したいという家族の思いがあるのではないかと分析されていました。現在の医療における生殖医療、出生前診断、遺伝子診断以外にも、欧米で否定されている入所施設が日本ではいまだに支持されている点にも根強い優生思想を感じると話されていました。

シンポジウム

コーディネーター野澤和弘氏の司会のもと、それぞれのシンポジストの講演が行われました。各シンポジストの講演の中でも、関哉直人氏(弁護士)「強制不妊手術問題と出生前診断」について話されていた内容が印象的でした。1948年(昭和23年)に「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止する」ことを目的に制定され、1996年(平成8年)に母体保護法に改正されるまで現存していた法律です。この法律が制定されたことにより、優生学的断種手術、中断、避妊が合法化されていました。現在、仙台、東京、大阪などで裁判が行われていますが、厚生労働省の把握する統計約25,000件(強制不妊手術約16,500件、本人同意により不妊手術約8,500件)のうち、本人が特定できる記録は5,400件しか残っていません。そして、出生前診断についても、拮抗しているとは言え命の選別につながるという考えより、女性の産む、産まないの自己決定の方が強くなっている現状があるようです。このような選択は障害のある胎児の出生を排除し、ひいては障害のある者の生きる権利と命の尊重を否定すると懸念されています。ニュース番組などで耳にすることはあっても具体的な数字や事例を聞くことで、考える際のイメージがしやすかったです。また、「障害を持った人が子供をもつはずかない、育てられない」「障害をもつことは不幸なこと」という意識は優生思想として、法改正された現在でも潜在的に人の意識の中に根強く残っていることは講演を通じ、私自身感じるどころでした。

防災訓練

令和2年1月18日（土）

今回は防災まち歩きシミュレーションを企画しました。

目的として

1. たくさんの方に参加して頂く
2. 避難場所まで周りを確認しながら一緒に歩いてみる
3. 職員と楽しみながらも防災に対するイメージを深めてもらう

自分のまちを実際に歩いてみて、危険な場所など見つけながら防災意識を高めました。

帰着後、ぜんざいを食べながら感想も聞いてみました。

- ① 防災散歩はどうでしたか？
- ② 今年の目標は？



- ① 歩いてよかった
- ② 休まず来る。お風呂に行く
芝原 昭典

- ① 田んぼが恐ろしかった
- ② 出来る作業を増やす
田處 創

- ① いい運動になった
- ② ダイエット頑張る
正木 令子

- ① 看板やミラーなど危険がいっぱいあった
橋の上を歩くのが怖かった
- ② 休まない。健康な身体。給料アップを目指す
林 由加里

- ① なんとか楽しかった
- ② お金を貯めてプリキュアのDVDとCDを買う
青江 千紘

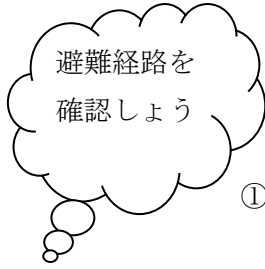
- ① 看板が危ないと思った
- ② きよし君の握手会に行く
笹 仁美

- ① ちょっと遠かった
- ② Kis-My-Ft2 のコンサートに行く
大久保 順子

- ① 疲れた
- ② 阪神タイガースの観戦に行きたい
坂東 智史

- ① 道がデコボコだった
- ② king&prince のコンサートへ行きたい
西山 美佳

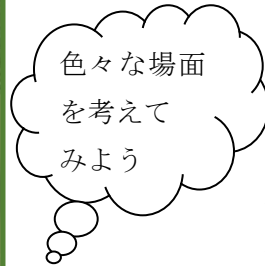




- ①地道に歩きました
 - ②作業を頑張ること
- 吉田 頼史

- ①足元は大丈夫だった
看板が危ないと思った
- ②一人で汽車に乗って遊びに行けるようになりたい

七條 結花



- ①ミニストップ前の看板が危ないと思った
- ②風邪をひかないように頑張る

北上 美里

- ①みんなのペースに合わせて歩けた
- ②作業を頑張ります

梶崎 太智



第1⇒阿波中学校⇒第1
往復 40分でした

- ①今日渡った橋が崩れたら？と思った
- ② 自転車で来たい

藤本 京二

- ①遠かったけど頑張って歩けた
 - ②お金を貯めてキンプリのコンサートに行く
- 林 星奈



- ①外のいい空気が吸えて
みんなと一緒に歩いて良かった
- ②みんなの力になって周りの人に聞いたり話をしたりを努力してみます

川人 加奈子



第2⇒林小学校⇒第2
往復 45分でした

- ②テレビを買いたい
- 藤本 修治

- ②デイサービスにもっと通いたい
どんどん歩けるようになりたい

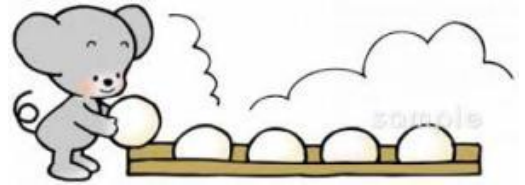
斎藤 美紀

**みんなの
防災**



令和元年 11月25日 (月)

毎年この時期、阿波地区民生委員・児童委員協議会さんが、アスカの皆さんと交流を深め、楽しんでもらいたいとの思いで「もちつき大会」を企画してくれています。蒸しあがったもち米は、利用者さんと一緒に「ぺったん！ぺったん！」手際よく丸餅に仕上げ、つきたてのお餅は、おろし大根や砂糖醤油をつけて試食！「美味しい！」「おかわり！」と声上がり笑顔いっぱい、お腹いっぱいになりました。



施設外就労（ねぎ仕分け作業）始めました



やってみたいなと思われる方チャレンジしてみませんか

㈱リーキーさんよりお声を頂き、昨年10月からスタートしました

「農福連携」という言葉を最近よく聞きますが、農家分野で障害のある人の就労を支援し、障がいのある人にとっての職域や収入拡大を図るとともに、農業にとっての担い手不足解消に繋げるとしています。

“農家さんは高齢になり体力に不安、しかし元気いっぱい障がい者がいる”
とても分かりやすい取り組みです。

体力に自信がある方、単調な作業でも集中力が維持できる方、視覚優位、こだわりを活かした点検、計量、細かい作業が得意な方。

全ての作業を1人でやりきるという前提では難しさがありますが、作業を切り分け、それぞれ得意な作業を行うことで、チームとしてなら対応が可能と思います。有難い事に野菜の袋入れやパック詰めなど、さまざまな作業の依頼が入ってきています。

★ チャレンジする方募集しています。



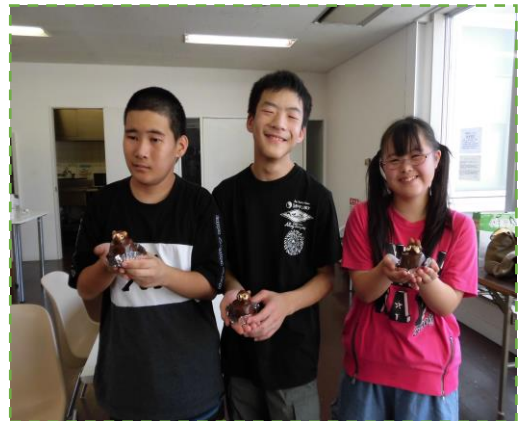
場所を提供して頂き
こ～んな感じでやっ
ています！



夏期社会適応訓練事業

令和元年7月30日～5日間実施

支援学校の先生方にボランティアとして参加して頂き今年も無事終了する事が出来ました。交流会ではバーベキューやゲームを楽しみました。社会見学は「藍の館」で藍染め体験とハレルヤスイーツキッチンでケーキを作りました。



アスカは元気いっぱいです！



2020年1月18日（土）

編集だより



「平成」から「令和」へと新たな時代の幕が開きました。
新しい年も笑顔いっぱいの年になりますようにお祈りいたします。
今春は卒業生1名がアスカに通所する予定となっております。
どんどん平均年齢が若くなり、利用者さんに色々教わっております。
年末の利用者さんとの会話です。

「今年のレコード大賞誰だろうねえ～

ところでレコードって知っている？」

「知らな～い」「見たことな～い」……………。

シクシク…。ジェネレーションギャップを感じます。

レコード大賞は小学生ユニット「パプリカ」が受賞しましたね

♪ “喜びを数えたら あなたでいっぱい”

私はこのフレーズが大好きです♡

今年は若者から積極的に学んでいこうと思います。

Chiho・Hosotani